

適正な塩素注入量の決定は、

フィードフォワード方式の 塩素要求量計 で！

Quick

Demand Checker CD-2000型



CD-2000型はアンモニア性窒素、鉄、マンガンなどの塩素消費物質による原水の「塩素要求量」をあらかじめ測定して、必要な塩素注入量を予想するフィードフォワード方式を採用しています。

水道法では給水栓で遊離残留塩素を 0.1mg/L以上保持することとされています。



水の塩素処理に際しては、塩素の適正量を求める必要があります。

本装置は河川、湖沼、ダム、地下水、海水などの原水の塩素要求量をクーロメトリー法（電量滴定法）により、短時間・簡単に測定できます。

- 塩素処理の際の塩素注入率の決定に
（過不足のない塩素量を事前に知ることができます）
- 塩素処理の日常の管理・監視用に
- 異常時（大雨のあとの高濁時等）の対策用に
- 塩素消費反応の研究用に



セントラル科学株式会社

塩素要求量計 CD-2000型

塩素処理の日常の水質管理や監視、また大雨による高濁時などの異常時の対策用にご利用いただけます。



UVランプユニット用電源



測定部

仕様

測定方法：電量滴定法（紫外線による塩素消費反応の促進）

測定範囲：0.01～20.00mg/L

測定精度：20mg/L標準液±1mg/L

測定時間：5分（1～99分まで可変）

電極：電解電極（白金-白金）
指示電極（白金-銀）

試料量：10mL

試薬量：電解液10mL

測定終了：ブザー音により報知し、自動停止

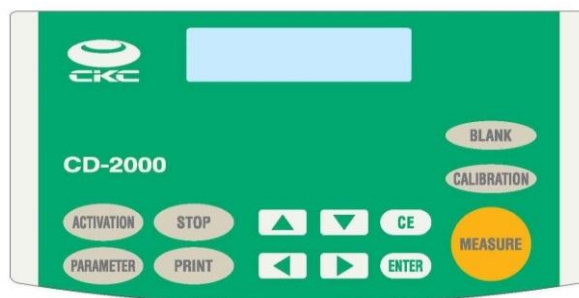
外部出力：RS232C 1ポート

データメモリ：50データ

電源：AC100～240V, 50/60Hz

外形寸法：310W×270D×260H mm

質量：約5kg



操作パネル

測定原理（電量滴定法＝Coulometric Titration）

本装置は測定方式にクーロメトリー法（電量滴定法）を採用しています。この方法は、測定対象成分と、迅速かつ定量的に反応する物質を電気分解により生成させ、その反応の終点を電氣的に求めます。

すなわち、ファラデーの法則にもとづき、反応終点までに消費した電気量（電流×時間）から目的成分の濃度を測定します。

試料水に電解液を加えて、電気分解すると陽極で生成される塩素と試料中の塩素消費物質とが速やかに定量的に反応します。溶液中の未反応の塩素を指示電極で検出して測定が終了し、塩素要求量（mg/L）として表示されます。

*電量滴定法はJIS K0113「電位差・電流・電量・カールフィッシャー滴定方法通則」で規格化されている測定方法です。



セントラル科学株式会社

本社 〒104-0053 東京都中央区晴海2-1-40 晴海プライムスクエア
TEL. 03-3812-0226 FAX. 03-3814-7538

大阪支店 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-6-18 新大阪和幸ビル
TEL. 06-6392-1978 FAX. 06-6392-1971